

FUJIARTE フジアルテは、多様な人材に雇用の機会を創出し、日本のものづくりを支える

1962年創業のフジアルテは、人材サービス分野で60年以上の経験を持ち、日本のものづくりとグローバル人材をつないできた。人口動態の変化、第4次産業革命に伴う自動化、そしてサプライチェーンの変容が進む中で、同社は日本の労働・産業政策上の優先事項と足並みを揃えながら、生産性、レジリエンス、そして人と企業双方の成長を支援している。

By Cian O'Neill, Daniel de Bomford and Arthur Menkes

日本の工場では、あらゆる生産ラインが、巨大な国家のエンジンを構成する歯車のように機能している。歯車が一つでも狂えば、機械全体に負荷がかかる。需要に押されて工場が高速稼働を求められる中、メーカーは品質向上、生産性の引き上げ、グローバル競争力の確保という面で一層の圧力にさらされている。したがって、熟練人材の確保は、最も根深い経営課題の一つとなっている。

フジアルテは、長年にわたりこのエンジンを回し続けることに貢献してきた。1962年、人材サービス業界の先駆者として創業し、人材派遣と製造請負を通じて日本のものづくりを支えてきた。現在では、モビリティやエレクトロニクスなどの分野で大手企業やグローバルブランドと協業し、派遣、請負、紹介を中核とするビジネスモデルのもと、全国30拠点以上で事業を展開している。

派遣を超えて具体的成果を生む請負

「日本は世界で最も急速に高齢化が進む社会です。毎年労働力人口が減少し、人手不足

は日本社会全体にとってだけでなく、当業界や当社にとっても極めて深刻な課題になっています」と、代表取締役社長の平尾隆志は語る。「日本政府と人材サービス業界は、こうした課題に対し、4つの主要な取り組みを通じて積極的に対応しています。」

フジアルテの戦略は、国の政策上の優先事項と整合している。すなわち、製造現場における女性活躍の推進、高齢者の意義ある就業機会の創出、人口減少を補うためのグローバル人材の活用、AI・IoT・ロボティクスによる生産性の継続的改善である。これらの柱が、同社のサービスと、製造現場における顧客支援の姿勢の双方を形づくっている。

フジアルテのビジネスモデルは、これら社会課題の解決に直結している。「当社の事業は、派遣、請負、人材紹介の3本柱で構成されています」と平尾は言う。「中でも請負は、高付加価値サービスとしてお客様から高く評価されています。」単に労働力を供給するのではなく、フジアルテが生産管理、品質管理、生産性改善に至るまで製造プロ



「私たちの目指す姿は、多くの国の人々が共に働き、幸せを実現し、より良い未来を築ける会社です。」

平尾 隆志
フジアルテ株式会社
代表取締役社長
<https://fujiarite.co.jp>



セス全体の責任を担い、明確で測定可能な成果を提供する。

その成果は抽象的な約束ではなく、具体的な数値や事例で示されている。あるパソコン生産ラインでは、同じ生産量を100人ではなく90人で達成できるよう効率を改善し、コスト削減に直接貢献した。同社はまた、教育プログラムやモチベーション醸成の取り組みを通じて不良率を大幅に低減する改善施策にも注力している。これらの実績こそが、フジアルテの請負モデルの中核的な強みを体現している。

高度・高精度領域に向けた育成

こうしたパフォーマンスを生み出す力の源泉は、従来型の派遣会社というより“アカデミー”に近い教育基盤にある。「当社は『フジアカデミー』という総合的な教育・研修制度を運営しています」と平尾は語る。

社員は、安全、規律、品質意識、コミュニケーションといった職場の基礎から体系的な研修を受け、その後、自動車、半導体、エレクトロニクス向けの業界別技術コースへと進む。現場の実機を用い、経験豊富なトレーナーが指導する段階別リーダーシッププログラムにより、オペレーターからチームリーダー、管理職へと成長できるよう育成している。



工場の自動化やデジタルツールが進展するほど、人の技能への投資は重要性を増している。「自動化が進んでも、特に高精度材料や部品を扱う産業では、多くの工程が依然として人の技能や職人性に大きく依存しています」と平尾は言う。こうしたニーズに応えるため、フジアルテは技術講座や資格取得支援を提供する研修センターを運営し、先端製造システムの運用・保守を担える次世代エンジニアの育成を進めている。

グローバル人材を日本の新たな強みに

グローバル人材は、フジアルテのビジネスモデルにおける第二の柱である。同社は30年以上にわたり、日系ブラジル人コミュニティから始まり、その後ベトナム、フィリピン、ミャンマーへと広げながら、海外人材の採用・雇用に取り組んできた。20代、30代の若い人材が高齢化する国内労働力を補い、日本各地の製造現場に新たな活力と技能をもたらしている。

10万人を超えるグローバル人材の雇用を支援してきたフジアルテの役割は、職の紹介にとどまらない。通訳・翻訳、住居手配、移動手手段、行政手続き、医療支援、社員の子どもへの教育支援、日常の定着支援まで、包括的なサポートを提供している。同社はサンパウロに現地子会社を設立し、直接的な採用チャネルを確保。ベトナムでは、定期的な訪問と現地との関係構築を通じて、地域に根差した信頼性の高い採用ネットワークを築いてきた。

この人を中心に据える思想は、取引先の選定にも影響している。フジアルテは、コンプライアンスや安全対策が不十分な企業との取引を意図的に避けている。社員が安心し、尊重され、公正に評価される環境を確保することで、

製造業というキャリアのイメージを全体として高めることを目指している。



半導体、AI、リテールへの拡張

フジアルテの事業は、製造現場にとどまらない。技術力を強化するため、半導体設計およびAIエンジニアリングを手がける株式会社シンコムをグループに迎え入れた。「このM&Aにより、ものづくりのノウハウと最先端の設計能力を組み合わせ、新たなシナジーを創出し、日本のものづくりをさらに前進させることができます」と平尾は語る。

また、リテールの販売促進アウトソーシングを専門とするフィクスコミュニケーションズ株式会社もグループに加わった。売場レイアウト最適化、在庫管理、販促キャンペーン企画などの最適化されたソリューションを提供し、ある大手小売企業では導入から6カ月で売上を3倍に伸ばすことに貢献した。製造、先端エンジニアリング、リテールプロモーションに強みを持つ企業を統合することで、フジアルテは人材活用に関する包括的コンサルティングを通じ、高付加価値サービスを提供している。

幅広い成長を支える企業文化

こうした多角的な事業拡張を支えるのは、深く根付いた企業文化である。フジアルテの経

営理念は「全従業員の物心両面の幸福を追求し、世界の人々と社会の豊かさに貢献する」ことだ。同社は、社員、顧客、社会の幸福なくして企業の成長はあり得ないと考えている。

フジアルテの経営哲学は、社員が仕事を通じて成長し、目的を見いだせるよう後押ししながら、社会的価値を創出し、社会に建設的に貢献することに重きを置いている。



Vision 2030: 多様性が牽引する成長

フジアルテは長期的な経営の方向性を明確に定めている。Vision 2030の下、売上高1,000億円(約6億3,950万米ドル)と、2万人の雇用を目標としている。すでに約1万人を雇用し、売上高は約600億円(約3億8,370万米ドル)に達している。

今後、フジアルテは国内営業網の拡大、半導体などのエンジニアリング分野での存在感の強化、そして多様なグローバル人材が活躍できる機会の創出を通じて、さらなる成長を目指す。

「多様な人々が活躍し、社会のウェルビーイングに貢献できるグローバル人材企業として、国籍や背景を問わず、日本で働き、幸せを見いだせるよう、これからも人を支え続けたいと思います」と平尾は語る。

